

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価書】

中学校区におけるめざす子ども像
自らすすんで学ぶ力を持った子

堺市立 宮園小学校
校長 小林 朋子

令和7年度 重点目標
1 子どもの「学ぶ力・学び合う力」を育てる 2 一人ひとりの自己肯定感を高める 3 チーム宮園として 支え合う 高め合う 4 児童1人1台パソコン活用推進

確かな学びの現状
令和6年度「すくすくウォッチ」(5・6年生)では、大阪府平均と比べると、基礎基本の定着において厳しい状況にある。そのため、今年度も引き続き、「学ぶ力」の根底となる、基礎基本の学力の定着をめざした取り組みを行う。
また深井中学校区グランドデザインで設定しているめざす子ども像「自らすすんで学ぶ力を持った子」や文科省提言、「堺市学びのコンパス」の主旨をもとに今年度の研修テーマを「主体的に課題を見つけ、自ら考え、判断し、表現できる子の育成～国語科における「学びのコンパス」を活用した授業改善をめざして～」とした。少人数指導の特色を活かしきめ細やかな指導による基礎基本の学力の定着をめざしながら、本校の児童の実態に合った探究的な学びの過程を研究し、「楽しかった。わかった。できた。」という達成感を得て、「次はこんなことを学びたい。調べてみたい。」と自ら学びに向かう意欲を高められるよう、教材や場の設定の工夫を教職員で共有していく。今年度は特に国語科において研究を進めていく。

豊かな心・健やかな体の現状
本校の児童は、係・委員会活動や清掃活動等で自分の役割に懸命に取り組み、縦割り班の活動では高学年が低学年が安心できるような声かけをする姿が見られる。教職員も適宜認めて褒めてと声かけをしているが、子どもたちの言動からはまだまだ、自信のなさうかがえる。令和6年度調査の質問項目「自分にはよいところがある」での肯定率は64.3%と堺市平均と比べ、低い状態にある。こうした実態から、人権目標「自己肯定感を高め、学習に対して粘り強く最後まで取り組むことができる子どもの育成」を基盤として、お互いを認め合いながら自己肯定感を高め、課題に対して最後まであきらめずにやり抜く子どもを育てる、学級づくり・学校づくりをめざす。
健やかな体の育成に関して、新体力テストの結果では、半数以上の種目で堺市の平均値を超えている。引き続き、体育の授業を中心に、課題のあった項目の改善に向けて取り組んでいく。また1年を通して、休み時間に運動場で活発に遊ぶ姿が見られるように、日々の生活の中で、運動が習慣化されるような働きかけを行っていきたい。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法 堺市学習・生活状況調査(1学期実施 3～6年生) 学校教育自己診断(2月実施 全年齢)	評価時期	進捗確認 (2学期)	達成状況(年度末)				
								自己評価	学校関係者評価			
確かな学び	基礎基本の定着	文字の読み書きや計算等、基礎基本の学力の定着を図る。	校内学力チェックを各学期実施し、前年度の学習内容の定着を図る。	①校内学力チェック(漢字・計算)年度末正答率 +10pt以上	校内学力チェック	毎学期末	○	①漢字+10.4 計算+4.5 ②各学年で自主学習に取り組む、お手本になるものを掲示し、取組みやすいようにしている。	B	基礎・基本の定着にコツコツと取り組んでいる。②の「いいえ」の減少と「どちらでもない」層の意識の向上を期待している。		
			自主学習の取り組み方を示し、定着をめざす。	②「自主学習ノートに頑張って取り組んでいる」3年生以上肯定的回答 70%	学校教育自己診断アンケート	年度末			B			
	授業力の向上	主体的に課題を見つけ、自ら考え、判断し、表現できる子どもを育成する。	児童自ら課題を見つけ、解決に向けて見通しを持って粘り強く取り組むことができる授業・単元展開を行う。	③「授業では、自分で課題を見つけたり、見直しを持って取り組んでいる」の肯定回答率70%以上	学校教育自己診断アンケート	年度末	△	⑤国48.6%、算66.7%(4年生以上) 目標値には到達せず、特に国語が厳しい状況にある。算数については、学年によってバラツキがあり、目標値を大きく超えている学年もある。	C	・自分から進んで学習という姿勢は難しいかもしれない。 ・自分の考えが言えることが大切。何を言っても受け止めてもらえるという学級づくりが大切ではないか。 ・協動的な学びについては、高学年が討論しながら自分たちで考えていた様子や発表の様子を目の当たりにして成果を感じた。		
			授業において、ペアやグループ学習、全体での話し合いの場を設定するなど、協動的な学びの場を設定する。 ●校内の研究授業や学習会を充実させ、授業改善に努める。	④「授業では、友だちの考えを理解しようとして、自分の考えに活かそうとしている」の肯定回答率70%以上 ⑤「授業の内容はよくわかりますか」の肯定回答率80%以上	学校教育自己診断アンケート 堺市学習・生活状況調査 学校教育自己診断アンケート	年度末 2学期末 年度末			B B			
豊かな心・健やかな体	豊かな心の育成	学校が安全で安心できる場所であることを前提に、全ての教育活動を通して ・自己肯定感の向上 ・道徳性の発達 を図る	授業で道徳的な価値について交流することを通して道徳的判断力を養い、学校生活の中で道徳実践に繋がるよう指導を行う。	⑥「学校のきまりやルールを守っている」肯定的回答 90%以上 ⑦「友だちを大切にしている」肯定的回答 90%	堺市学習・生活状況調査 学校教育自己診断アンケート	2学期末 年度末	△	⑥62.8%(4年生以上) 想定していた以上に肯定的回答が低い。登下校の帽子、名札、持ち物等の様子を見ていると、数名はルールであるが、8割近くは守れていると感じている。 ⑧60.9%(4年生以上) 「教職員の日々の声掛け＝自分のよいところ」と自信が持てるよう、引き続き取組を進める。	B	・「宮園っ子のいいね」の取組がステキだと思う。 ・今後も細やかな声掛けや取組の継続を望む。 ・「あかんことはあかん」という視点で子どもたちと向き合ってもらいたい。ルール・マナーを大切に。 ・児童数の減少につれ、年々大人しくなってきたようで心配。ルールや決まりごとを守っており、いいのではないか。		
			●人権教育の取組や、委員会活動や縦割り活動での異学年との関わり等を通し、他者と認め合う経験を重ね、自他を尊重できる心身の涵養を図る。	⑧「自分にはよいところがある」⑨「先生は、自分がしたことを認めてくれる」の肯定回答率85%以上	堺市学習・生活状況調査 学校教育自己診断アンケート	2学期末 年度末			B			
	健やかな体の育成	運動する喜びを感じる体育的行事や体育の授業づくりを通して ・運動意欲の向上 ・体力づくりの促進 を図る	運動意欲を向上させ、生活や遊びの中で体を動かそうとする児童を育成する。 授業中の運動量を保証し、内容を精査・工夫する。運動する喜びを感じる児童を育成することで身体能力の向上につなげる。	⑩「先生は、いじめなどわたしたちが困っていることに対応してくれる」の肯定回答率85%以上 ⑪運動実施率80%以上 ⑫「外で体を動かすことは好きですか」の肯定回答率80%以上 ⑬堺市の平均値以上	健康チャレンジ週間集計結果 学校教育自己診断アンケート 新体力テスト	毎学期 年度末	○	⑪69%(毎日10分以上の運動をしている児童) 目標には達していないが、休み時間に運動場で遊ぶ児童は増えている。	B B	・生活の中で体を動かすことで体力がつくとよい。 ・学校以外では体を動かす機会がないので、取組はよい。 ・コツコツと取り組まれている。楽しんで取り組める児童が増えるとうい。		
地域協働	信頼される学校	地域、保護者へ学校情報の積極的な発信を行うとともに、校種間連携を強め、地域に信頼される開かれた学校づくりを進める。	学校HP・校報等を活用し、地域・家庭への教育活動の現状と成果の発信に努める。 ●★宮園こども園、東深井小学校、深井中学校との交流や合同研修等を通して、課題の共有、課題解決に向けての具体的な取組を行う。	⑭「学校は、教育活動の現状や成果の発信に努めている」の肯定回答率90%以上 ⑮異校種間の交流、合同研修の機会年間5回以上	学校教育自己診断アンケート 交流・合同研修の実施回数	年度末 年度末	△	⑭引き続き、HPを中心に日々の学校生活の様子を発信していく。 ⑮合同研修会や相互参観を行った。おもちゃランドやにげん学習交流会にかかわる取組で交流を行った。	B B	⑭94% ⑮中学校区合同研修会、こども園相互参観を行い、日々の取組について共有することができた。また子ども間では、東深井小児童やこども園園児のおもちゃランドや園児訪問の際の読み聞かせ、にげん学習交流会に向けた取組及び学習会本番で交流することができた。	A B	・地域のみなさんの応援は大きいものだと思う。 ・⑭は目標値を上回っており、保護者にも浸透できている。こども園との交流は、次年度は意見交流ができるとうい。

校長より(年度末)
児童の実態から、自己肯定感の向上のため、「宮園っ子のいいね」やリフレーミングなどを人権教育の取組として継続的に行い、毎月のアンケートで個々の児童の実態を把握した。自己肯定感にかかわる項目からは成果が感じられたが、次年度以降も課題意識をもって、取り組んでいきたい。運動習慣では、体育の授業内容や健康チャレンジ週間が児童の生活にもよい影響を与え、年間を通して運動場で体を動かす姿が増えたことは成果といえる。確かな学びにかかわっては、各種学力調査結果は依然として厳しい状況にあるため、子どもたちが手応えを感じることができる取組を継続し、漢字、計算を中心とした基礎・基本の定着を図りつつ、個別最適な学び、協動的な学びに向けた授業を研究していきたい。

学校関係者評価者から(年度末)
・学びの中で、子どもたちは着実に成長している。今後、支援学校分校が併設されることもあり、こども園や学校間の連携の責務が大きいといえる。
・一人ひとりを大切に。そんな様子うかがえる。自己肯定感や周りの声掛けが大切ですが、本人がやる気を出して取組み、やりとげた思いが自信・自己肯定感の向上につながっていくものだと思う。粘り強く、小さな積み重ねを継続されることを願う。